

地震・津波・原発 被災地を襲う三重苦

さらに、不衛生な避難所生活で感染症が拡大！

避難所は様々な組織が分担しており、坂総合病院の担当は3ヶ所です。たとえば、七ヶ浜国際村は島根県立病院が担当しているようです。再来週あたりから学校の始業式が始まるので、学校の避難所を解消し統廃合がはじまっています。今、多賀城中学校の避難所で感染性消化器疾患が広がっており、統廃合で感染が拡散しないよう、トイレ掃除などの消毒作業が重点課題になっています。「そくよくし隊」や「夜間診療」も連日、実施されています。（4月7日発 東京民医連 齋藤 裕幸）

坂総合病院への応援で、同市内の避難所で診療に従事した山田智・立川相互病院副院長は、劣悪な衛生状態に驚きを隠さなかった。「被災者は体育館とトイレを土足で往復し、換気も満足に行われていない」。各地の避難所では、「インフルエンザ」や「ノロウイルス」の感染が拡大する兆候も見えていた（『週刊 東洋経済 4月9日号』より）。



☆ 学生も大活躍 ☆ 東都協議会第5次被災地支援隊報告

左の写真は、「そくよくし隊」で足浴をしている時のものです。作業中のため、わかりづらいですが、左から鈴木 重光さん（介護福祉専門学校/学生）、桜井 友陽さん（千寿の郷/学生）、穴戸恵理さん（柳原病院/理学療法士）。とても好評で、日中以外にも16時から20時頃にも対応しました。〈市川 洋平〉（『東都協議会支援対策本部ニュース』No.25より）。

志村さつき苑(健康文化会)、原発事故からの避難者を受け入れ

老人保健施設 志村さつき苑では6日、福島県いわき市でひとり暮らしをされていたAさん（84歳 女性）を受け入れました。Aさんは今回の原発事故で、板橋区内の娘さん宅に避難。震災のショック、環境の変化等で認知症様症状が出現、娘さんが心配して志村さつき苑に相談、今回の入所となりました。Aさんは月39,000円の年金収入のため、無料低額診療事業を利用、今後、減免手続き、生活保護等を申請をすすめる予定です。

志村さつき苑では厚生労働省からの「東北地方太平洋沖地震の発生に伴う要援護者の受け入れ」要請に呼応して、4月中に3床を確保。全国老人保健施設協会と受け入れ調整を開始していました。

お知らせ & お願い

6月5日(日)、東京民医連「看護介護活動研究交流集会」において、東日本大震災支援活動の写真展示会を行います。支援活動の様子がわかる写真を東京民医連看護部 kango@tokyominiren.ge.jp へお送りください。